科　目　名	文章の表現Ⅱ	科目分類	■教養科目　□専門科目
			□必修　■選択
			□必修　□選択
英文表記	Composition Ⅱ	開講年次	■１年　□２年　□３年　□４年
ふりがな	はしもと　しほ	開講期間	□前期　■後期　□通年　□集中
担当者名	橋　元　志　保	修得単位	2　　単位
授業の到達目標及びテーマ	〔到達目標〕優れた文学的文章や論説文を読みとき、それを考察し、表現する力を養成する。 〔テーマ〕　読解力と表現力。文章表現の基本を身につける。		
準備学習	総合的に、読む力・書く力・表現する力を伸ばしていくので、毎回出される課題を着実にクリアすること。		

【授業概要】

良い文章とは、どのような文章なのでしょうか。それは、テーマや表現、構成が優れているだけではなく、自分自身の価値観、心のありようが表れている文章だと思います。「文は人なり」という有名な言葉がありますが、文章を書くことは自分自身を見つめ直すことに繋がるのです。

本講義では、自分自身の考えを明確に伝え、また論理的な文章が書けるようになるために、様々なことを学んでいきます。具体的には、テーマや構成、題材と表現、推敲の大切さ等、文章上達のためのポイントをわかりやすくお話しします。また「家族とは何か」、「生きがいとは何か」等のテーマについて話し合いながら、実際に論理的な文章を書くことを学んでいきます。

授業計画
第　１回　心ありての言葉
第　２回　名文を読む①－アルフォンス・デーケン「愛の言葉」－
第　３回　名文を読む②－アルフォンス・デーケン「愛の言葉」－
第　４回　名文を書き写す①－河合隼男の文章から－
第　５回　名文を書き写す②－河合隼男の文章から－
第　６回　論作文を書いてみよう①－家族とは何か－
第　７回　論作文を書いてみよう②－少子高齢化と現代の家族－
第　８回　論作文を書いてみよう③－老々介護と福祉問題－
第　９回　推敲の方法
第 10 回　構成法と引用・要約について
第 11 回　文章作成上の様々なルールについて－公用文における用字法他－
第 12 回　論作文を書いてみよう①－生きがいとは何か－
第 13 回　論作文を書いてみよう②－「持つこと」と「在ること」－
第 14 回　論作文を書いてみよう③－生きがいと自己実現－
第 15 回　総括
第 16 回　後期試験

テキスト	辰濃和男『文章のみがき方』
参考文献	授業の際に紹介します。
評価の方法	出席や授業態度、課題、試験の総合評価とします。
学生への メッセージ	

科　目　名	小論文の書き方	科目分類	■教養科目　□専門科目
			□必修　□選択
			□必修　□選択
英文表記	Critical Thinking and Writing	開講年次	■１年　□２年　□３年　□４年
ふりがな	はしもと　しほ	開講期間	□前期　■後期　□通年　□集中
担当者名	橋　元　志　保	修得単位	２　単位
授業の到達目標及びテーマ	〔到達目標〕公務員試験（地方上級レベル）の論文試験に取り組むことのできる力を養成する。 〔テーマ〕　論理的文章を書くための基本を学ぶ。		
準備学習	課題として与えられたプリントは必ずやってくること。段階的に書く力を伸ばしていくので、一つ一つの課題をしっかりクリアしていくことが大切です。		

【授業概要】

本講義では、小論文やレポートの基本的な書き方を学びます。大学生活において、論理的な文章を「書く」という行為は欠かせないものです。定期試験における文章問題やレポート、そして卒業論文など、「テーマを決め、それに基づいて資料を集め、構成を考え、まとめていく」という作業を行うことは非常に多いのです。

まず初めに、テーマの設定や資料の検索の仕方、構成の重要性、引用・要約の方法などを学んでいきます。また、自分が書いた文章を、表記や文体、構成などの観点から、より良い文章に推敲していくスキルも身につけていきましょう。段階的に書く力を伸ばしていきますが、時事問題の効果的な取り入れ方についても学び、最終的には公務員の論文試験をクリアできる力を養成することを目指していきます。

授業計画
第１回　学術論文と試験論文とは
第２回　テーマと構成法、表現と文体について
第３回　引用と要約について
第４回　小論文の読解－試験論文を読み解く方法－
第５回　小論文を書いてみよう①－三段構成法とは－
第６回　小論文を書いてみよう②－事実と意見－
第７回　小論文を書いてみよう③－テーマの伝え方－
第８回　推敲の方法
第９回　公務員試験の論文対策①
第 10 回　公務員試験の論文対策②
第 11 回　時事問題の学び方①－格差社会－
第 12 回　時事問題の学び方②－グローバル化と国際化－
第 13 回　時事問題の学び方③－環境問題について－
第 14 回　時事問題の学び方④－循環型社会の構築－
第 15 回　総括
第 16 回　後期試験

テキスト	資料を配布します。
参考文献	授業の際に、紹介します。
評価の方法	出席や授業態度、課題、試験の総合評価とします。
学生へのメッセージ	公務員試験の論文対策を行います。志望者はぜひ受講してください。

科　目　名	地理学の基礎 II	科目分類	■教養科目　□専門科目 法学部　□必修　■選択 経済学部　□必修　■選択
英文表記	Geography II	開講年次	■１年　□２年　□３年　□４年
ふりがな	ごとう　ただし	開講期間	□前期　■後期　□通年　□集中
担当者名	後藤　　忠志	修得単位	2 単位
授業の到達目標及びテーマ	〔到達目標〕日本と世界の地誌について基本事項を理解する。 〔テーマ〕日本の地誌と世界の地誌、		
準備学習	・可能であれば、高校か中学校の地理の教科書や地図帳を使って、毎回の関連項目に目を通しておくと学習しやすいでしょう。また、新聞や TV などで最新の日本情勢、世界情勢を把握しておくとより理解が深まるでしょう		

【授業概要】本授業では系統地理と並ぶ、地理学の二大分野の内の一つ、日本と外国の地誌について学びます。

授業計画
第１回　日本の国土と自然１
第２回　日本の国土と自然２
第３回　北海道
第４回　東北
第５回　関東
第６回　東海
第７回　北陸・甲信越
第８回　近畿
第９回　中国・四国
第 10 回　九州・沖縄
第 11 回　ロシア・中国
第 12 回　韓国・他アジア・オセアニア
第 13 回　ヨーロッパ
第 14 回　アメリカ
第 15 回　外題の国家と民族問題
第 16 回　試験

テキスト	二宮書店『詳解現代地図 2011－2012』、2011 年、1600 円
参考文献	授業中に紹介します。
評価の方法	総合評価（出欠、受講態度、提出物、試験等）
学生へのメッセージ	地理学の基礎Ⅰ、Ⅱはできるだけ通年履修することを望みます。

（半期・２単位）

科　目　名	日本の歴史Ⅱ	科目分類	□教養科目　□専門科目 □必修　□選択 □必修　□選択
英文表記		開講年次	□１年　□２年　□３年　□４年
ふりがな	はなだ　ふじお	開講期間	□前期　□後期　□通年　□集中
担当者名	花田　　富二夫	修得単位	２単位
授業の到達目標及びテーマ	〔到達目標〕江戸時代の歴史を中心に歴史と生活・文化の両面から時代の流れを見てみる。 〔テーマ〕江戸時代の歴史と文化の学習		
準備学習	※江戸時代の生活と文化についてこれまでの知識を整理し、振り返っていてください。		

【授業概要】江戸時代の歴史を学ぶとともに、その生活と文化について知識を深め、室町以前の歴史文化、明治以後の歴史文化との相違を明確にしながら、日本史の全体像についても理解を深める。

授業計画
第１回　講義入門　江戸時代の位置づけについて
第２回　徳川家康と江戸開幕
第３回　大名と朝廷の統制
第４回　士農工商について
第５回　江戸城と江戸の町作り―明暦の大火を中心に
第６回　鎖国への道
第７回　幕府の安定と町人活動
第８回　産業の発達
第９回　町人の経済活動
第 10 回　元禄文化
第 11 回　江戸の出版
第 12 回　幕藩体制の動揺―享保の改革と田沼時代
第 13 回　幕藩体制の動揺―寛政の改革と天保の改革
第 14 回　化政文化
第 15 回　近代国家への道
第 16 回　試験

テキスト	特になし。毎回プリントで行う
参考文献	授業時間に指示する
評価の方法	※授業への出席や小レポートならびに試験で総合的に評価する
学生へのメッセージ	歴史的次項だけでなく文化的側面にも注視します。

科　目　名	自然の科学Ⅱ	科目分類	■教養科目　□専門科目	
			全	□必修　■選択
				□必修　□選択
英文表記	Natural Sciences II	開講年次	■１年 □２年 □３年 □４年	
ふりがな	むらなかたかし	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中	
担当者名	村中　孝司	修得単位	２　単位	
授業の到達目標及びテーマ	〔到達目標〕宇宙の成り立ちと太陽系・地球、日本列島の特色について概観し、自然科学の本質と学問的な特色、科学的方法と論理的思考について修得する。 〔テーマ〕日本の自然と近代自然科学			
準備学習	インターネットに依存せず、まず物事を考えよ。地球外生命体が存在するか否か、我々人類の進化の道筋を実際に確かめる方法はあるか、事前に考えておくこと。			

【授業概要】人類は次々の科学的な発見や発明を繰り返して、自然現象を明らかにしてきた。しかし、宇宙の広がりや誕生、生命の起源、数多くの自然現象の多くが十分に明らかにされたわけではない。未知の自然現象に対して、科学者は現象に関する情報や問題点を発見、蓄積、整理し、分析することを通して仮説の検証を試みてきた。「自然科学」はいったいどのようにして生み出されてきたのか。講義では、(1) 古代宇宙観と現代宇宙論、宇宙の誕生と進化、太陽系、地球について触れ、(2) 日本の自然の特色と美しい自然景観、豊かさなどの特色を紹介する。また、(3) 科学の誕生と発展、科学の要件と科学者の資質、科学的な研究の方法や考え方について考え、「自然科学」の人間社会における役割や科学的手法の重要性について考えることを目的とする。

授業計画	
第１回	ガイダンス　　自然学から自然科学へ
第２回	宇宙(1)：　古代の宇宙観と現代宇宙論 自然学～自然科学の対象としての宇宙
第３回	宇宙(2)：　宇宙の誕生と進化、物質とエネルギー 宇宙の誕生と物質・光・重力、中性子星とブラックホール
第４回	宇宙(3)：　太陽系と地球 生命を作り出した物質、地球外生命体、時間・空間移動
第５回	日本列島(1)：　日本列島の気候、地質、地形 日本列島の地球科学的な特色、火山と地震、温暖湿潤な気候
第６回	日本列島(2)：　日本の森林 日本の森林の豊かさ、原生林と二次林、自然景観と観光地
第７回	日本列島(3)：　日本の川と文化 川から海へ、回廊（コリドー）としての川、川からの恵みと農業の発達
第８回	自然科学とは何か(1)：　自然学から近代自然科学へ 古代ギリシア自然学における天文学・物理学、化学、生物学
第９回	自然科学とは何か(2)：　科学の要件 「科学的」とは何か？、学問と科学の領域
第10回	自然科学とは何か(3)：　科学的方法、仮説と問題 「科学的」な研究方法、論理、演繹と帰納、問題と仮説の発見、帰無仮説
第11回	自然科学とは何か(4)：　情報の分類 元素の周期表、二名法、生命の自然分類と人為群、図書分類
第12回	自然科学とは何か(5)：　情報の収集と分析 標本抽出法、データの収集と分析、比較、相関と回帰
第13回	自然科学とは何か(6)：　科学研究の公表手続き 成果の公表、いろいろな文献・資料、教育と研究
第14回	自然観・自然思想(1)：　風土と自然観 和辻哲郎『風土』、西洋と東洋の自然観、自然思想と近代自然科学
第15回	自然観・自然思想(2)：　照葉樹林文化と農耕の起源 中尾佐助『栽培植物と農耕の起源』、根栽農耕文化と稲作
第16回	試験

テキスト	配布資料
参考文献	中谷宇吉郎『科学の方法』、長尾真『「わかる」とは何か』、佐藤勝彦『宇宙論入門』、佐々木高明『照葉樹林文化の道』、鈴木秀夫『森林の思考・砂漠の思考』
評価の方法	試験、レポート（随時実施する）
学生へのメッセージ	「宇宙」や「自然」に対して、人間は宇宙、自然、生命をどのように認識していたのか。時空を自由に移動できるのだろうか。科学的に論理的に考える。

（半期・２単位）

科　目　名	リーダーシップ論	科目分類	□教養科目　□専門科目
			□必修　□選択
			□必修　□選択
英文表記	Theory of Leadership	開講年次	□１年　□２年　□３年　□４年
ふりがな	い　とう　ご　　ろう	開講期間	□前期　□後期　□通年　□集中
担当者名	伊　藤　　護　　朗	修得単位	２　単位
授業の到達目標及びテーマ	リーダーに求められる能力・資質を身につける 「信頼関係の構築」について考える		
準備学習	実践に役立つ授業を目指し、事例や実例を多く取り入れるので、この科目の内容に関連するメディアの報道に関心をよせて欲しい。		

【授業概要】リーダーシップとは、変革を成し遂げる力量を指す。近年リーダーシップの重要性が高まっている背景の一つに、ビジネスの世界で競争と変化が激しさを増していることがあげられる。同じことを繰り返したり、あるいはそれを少しばかり改善したくらいでは、もはや成功を手にすることはできない。

本講では、「リーダーシップの科学」や「人心掌握のベース作り」などを取り上げ、変革を余儀なくされている新しい環境を生き抜く方法を模索する。

授業計画
第１回　リーダーシップとは
第２回　職場におけるリーダーシップ
第３回　人心掌握のベース作り
第４回　公正な世界観の育成
第５回　リーダーシップの科学（１）―「ＰＭ理論」「Ｐ機能」「Ｍ機能」など
第６回　リーダーシップの科学（２）―「因子分析」「配慮」「体制づくり」など
第７回　組織集団の状況とリーダーシップ
第８回　動機づけ理論（欲求の喚起）
第９回　リーダーになるための条件
第 10 回　人間関係管理論（１）―「人間（じんかん）距離」を中心に
第 11 回　人間関係管理論（２）―「青い鳥症候群」「燃えつき症候群」など
第 12 回　人間関係管理論（３）―　信頼関係を中心に
第 13 回　説得力を高めるには　―「ハロー（後光）効果」など
第 14 回　説得者の魅力効用　―「理念と方針」「人脈」「振る舞い」など
第 15 回　説得効果を高める手順　―「ロールプレイング」など
第 16 回　テスト

テキスト	特に使用しない。必要に応じてプリント（資料）配付
参考文献	ジョン・コッター著、黒田由貴子訳「リーダーシップ論」（ダイヤモンド社）
評価の方法	出席状況・受講態度・テストなどを総合して評価する。
学生への メッセージ	この講義で提示する考え方や事例を一つの手がかりとして、それぞれ個性的・創造的なリーダーシップの在り方を模索して欲しい。

科　目　名	環境のはなしⅡ （環境論Ⅱ）	科目分類	■教養科目　□専門科目	
			法律	□必修　■選択
			経済	□必修　■選択
英文表記	Environmental Sciences Ⅱ	開講年次	□１年　■２年　□３年　□４年	
ふりがな	りきいし　くにお	開講期間	□前期■　後期　□通年　□集中	
担当者名	力　石　國　男	修得単位	２　単位	
授業の到達目標及びテーマ	〔到達目標〕日本列島の地理的環境が美しい四季の彩りだけではなく、異常気象や自然災害を引き起こしていること理解すること。また自然災害に対する理解を深めること。 〔テーマ〕身近な自然環境の理解			
準備学習	普段から自然を体で感じるように心掛けて、季節の移ろいや異常気象，気象災害などが生じるメカニズムに関心・疑問を抱いてください。			

【授業概要】本授業では身近な自然環境に焦点を当てて、四季の変化や、気候変動、異常気象、気象災害、自然災害などが発生するメカニズムに対する理解を深めます。

授業計画
第１回　地球の気候システムの概要
第２回　大気の組成と構造
第３回　大気の流れ
第４回　四季の変化
第５回　異常気象
第６回　気象災害Ⅰ
第７回　気象災害Ⅱ
第８回　気候の変動
第９回　暖水を運ぶ黒潮
第 10 回　海洋潮汐―海面の規則的な昇降―
第 11 回　津波の破壊力
第 12 回　雪が降るわけ
第 13 回　北日本の豪雪と雪害Ⅰ
第 14 回　北日本の豪雪と雪害Ⅱ
第 15 回　雪崩に遭わないために
第 16 回　試験

テキスト	資料を配布します。パワーポイントも使います。
参考文献	必要に応じて授業中に指示します。
評価の方法	試験、ミニテスト(随時実施)
学生へのメッセージ	郷土の自然の変化に対する理解し、愛着を深めてください。

科　目　名	入門経済学	科目分類	□教養科目　□専門科目
			□必修　□選択
			□必修　□選択
英文表記		開講年次	□１年　□２年　□３年　□４年
ふりがな	かわい　のぶはる	開講期間	□前期　□後期　□通年　□集中
担当者名	河合　伸治	修得単位	２単位
授業の到達目標及びテーマ	〔到達目標〕　経済学の基本的な見方・考え方を習得する。 〔テーマ〕　経済学とはどのような学問か？		
準備学習	日頃から新聞やニュース等をよく見て、世の中で何が起こっているのか興味・関心を持って下さい。		

【授業概要】
経済学の基本的な見方・考え方を習得できるような授業を展開していきます。

授業計画
第１回　ガイダンス 経済学的の基本的な考え方
第２回 市場の役割
第３回 価格決定のメカニズム
第４回 競争と独占
第５回 政府の役割
第６回 財政と財政政策
第７回 金融の役割
第８回 金融政策
第９回 中間のまとめ
第１０回 国民所得
第１１回 経済成長とインフレ
第１２回 景気循環
第１３回 国際貿易
第１４回 国際金融
第１５回　補足とまとめ
第 16 回　試　験

テキスト	**必要に応じてプリントを配布します**
参考文献	**特に指定しません**
評価の方法	出席点（確認テスト等も含む）40%，試験60%
学生へのメッセージ	経済学は英語や数学と同じく毎回の授業で得た知識を着実に積み上げていくことによって理解が深まる科目です。毎回の授業を確実にモノにできるよう、特に授業の復習に力点を置いて下さい。授業では適宜簡単な確認テスト等も行う予定です。

科　目　名	ミクロ経済学	科目分類	□教養科目　□専門科目
			□必修　□選択
			□必修　□選択
英文表記		開講年次	□１年　□２年　□３年　□４年
ふりがな	かわい　のぶはる	開講期間	□前期　□後期　□通年　□集中
担当者名	河合　伸治	修得単位	２単位
授業の到達目標及びテーマ	〔到達目標〕ミクロ経済学の基本的な見方・考え方を習得する 〔テーマ〕　ミクロ経済学とはどのような学問か？		
準備学習	入門経済学で習得した知識があることを前提に講義を進めていきますので、授業の復習をしておいて下さい。		

【授業概要】
ミクロ経済学の基本的な見方・考え方を習得できるような授業を展開していきます。

授業計画
第１回　ガイダンス　ミクロ経済学の基本的な考え方
第２回　需要と供給
第３回　需要曲線と消費者行動
第４回　問題演習
第５回　費用の構造と供給行動
第６回　市場取引と資源配分
第７回　問題演習
第８回　ゲームの理論入門
第９回　独占と競争の理論
第 10 回　問題演習
第 11 回　市場の失敗
第 12 回　不確実性と不完全情報の世界
第 13 回　問題演習
第 14 回　消費者の理論
第 15 回　問題演習
第 16 回　まとめ

テキスト	**必要に応じてプリントを配布します**
参考文献	**授業中に適宜紹介して行きます**
評価の方法	出席点（確認テスト等も含む）40%，試験60%
学生へのメッセージ	経済学は英語や数学と同じく毎回の授業で得た知識を着実に積み上げていくことによって理解が深まる科目です。毎回の授業を確実にモノにできるよう、特に授業の復習に力点を置いて下さい。授業では問題演習及び簡単な確認テスト等を繰り返し行うことによって知識の確実な習得を目指します。

科　目　名	国際経済学Ⅱ	科目分類	□教養科目　■専門科目	
			経済	□必修　■選択
			マネジメント	□必修　■選択
英文表記	International Economics Ⅱ	開講年次	□１年　■２年　□３年　□４年	
ふりがな	まえだ　なおや	開講期間	□前期　■後期　□通年　□集中	
担当者名	前田　　直哉	修得単位	２　単位	
授業の到達目標及びテーマ	〔到達目標〕国際貿易の基礎理論を理解する。 〔テーマ〕国際貿易論			
準備学習	授業の前にテキストを必ず読んでおくこと。			

【授業概要】1990 年代に入って経済のグローバリゼーションが急速に進んだ。この現象を理解するためには国際経済学の理論のみならず、その歴史･制度についても学習することが必要である。本講義の目的は国際貿易の基礎理論を中心に学ぶことにある。なお、国際貿易の基礎理論に関する理解を深めるため、講義中に質問を適宜行う。

授業計画

第１回　ガイダンス
第２回　国際貿易の基礎理論：リカードの比較生産費説(1)
第３回　リカードの比較生産費説(2)
第４回　ヘクシャー＝オリーン･モデル(1)
第５回　ヘクシャー＝オリーン･モデル(2)
第６回　現代の国際貿易論：規模の経済と国際貿易(1)
第７回　規模の経済と国際貿易(2)
第８回　小テスト
第９回　国際貿易の利益：自由貿易の厚生分析(1)
第 10 回　自由貿易の厚生分析(2)
第 11 回　完全競争と貿易政策：小国開放経済と関税政策(1)
第 12 回　小国開放経済と関税政策(2)
第 13 回　世界貿易体制と日本(1)
第 14 回　世界貿易体制と日本(2)
第 15 回　小テスト
第 16 回　定期試験

テキスト	多和田眞(2010)『コンパクト国際経済学』新世社。
参考文献	特に指定しない。
評価の方法	定期試験、小テスト(2 回)、平常点(出席回数を含む)
学生へのメッセージ	授業の進め方と評価方法については初回のガイダンスで詳しく説明する。また、テキストを必ず持参すること。

科　目　名	財政と国民生活	科目分類	□教養科目　□専門科目
			□必修　□選択
			□必修　□選択
英文表記		開講年次	□１年　□２年　□３年　□４年
ふりがな	かわい　のぶはる	開講期間	□前期　□後期　□通年　□集中
担当者名	河合　伸治	修得単位	２単位
授業の到達目標及びテーマ	〔到達目標〕　財政が国民生活とどのように関係しているのかを理解する。 〔テーマ〕　財政はどのように国民生活と関係しているのか？		
準備学習	入門経済学で習得した知識があることを前提に講義を進めていきますので、授業の復習をしておいて下さい。		

【授業概要】
財政がどのように国民生活と関係しているのか理解できるような授業を展開していきます。

授業計画
第１回　ガイダンス　財政とは①　－ 市場と政府–
第２回　財政とは　②　－ 財政の３つの役割(①資源配分②所得再分配③経済安定化)–
第３回　税　①　－ 税の種類と基本原則–
第４回　税　②　－ 税の誘因効果–
第５回　税　③　－ 税の転嫁と帰着–
第６回　税　④　－ 税の超過負担–
第７回　所得再分配①　－ 所得再分配とは何か–
第８回　所得再分配②　－ 所得再分配をめぐる諸問題–
第９回　中間のまとめ
第１０回　公債　①　－ 公債の負担をめぐる伝統的な議論–
第１１回　公債　②　－ 公債の中立性–
第１２回　社会保障①　－ 社会保障とは何か–
第１３回　社会保障②　－ 公的年金–
第１４回　社会保障③　－ 年金改革–
第１５回　まとめ
第１６回　試　験

テキスト	必要に応じてプリントを配布します
参考文献	授業中に適宜紹介して行きます
評価の方法	出席点(確認テスト等も含む)40%，試験60%
学生へのメッセージ	財政学は応用経済学の一分野であり、経済学と同じく毎回の授業で得た知識を着実に積み上げていくことによって理解が深まる科目です。毎回の授業を確実にモノにできるよう、特に授業の復習に力点を置いて下さい。授業では適宜簡単な確認テスト等も行う予定です。

科　目　名	現代ファイナンス論Ⅱ	科目分類	□教養科目　☑専門科目	
				□必修　☑選択
				□必修　☑選択
英文表記	Theory of Modern Finance Ⅱ	開講年次	□１年 ☑２年 □３年 □４年	
ふりがな	やまもと　しゅん	開講期間	□前期 □後期 □通年 □集中	
担当者名	山本　俊	修得単位	２単位	
授業の到達目標及びテーマ	自らが直面するファイナンスに関する課題に対して、学習したことを基に、回答を主体的に考えることができるようになること。			
準備学習	①高校数学（特に、数列、極限、分散）の復習。ただし、前提とはせずに、授業でもその都度説明するので、苦手な受講者はこの際に習得することを期待する。 ②授業の復習は必ずその日に行うこと。			

【授業概要】現代ファイナンス論Ⅰの金利と資産価格（第4回、5回）、金融派生商品（第6回）、企業金融（第9回、第10回）の部分に焦点をあて、より専門的かつ実践的に学習する。ファイナンスで多用される手法に慣れてもらうため、前半部分で数回の課題を出す。

授業計画

第1回　テーマ：ファイナンスの基本事項の確認、講義資料配布（教科書1章）
ガイダンス、ファイナンスと金融制度及び金融市場

第2回　テーマ：時間価値、講義資料配布（教科書4章、第5章）
割引率、現在価値、将来価値などの基礎概念の確認

第3回　第4回　テーマ：資本計画、講義資料配布（教科書6章）
　第3回　投資決定の考え方、キャッシュフロー、資本コスト、正味現在価値法
　第4回　内部収益率法と排他的な投資計画

第5回　テーマ：債券、講義資料配布（教科書8章）
割引債、利付債、利回り、イールドカーブ、金利リスク

第6回　テーマ：株式、講義資料配布（教科書9章）
配当割引モデル、配当が成長する割引モデル

第7回　テーマ：リスク管理の基本、講義資料配布（教科書10章、第11章）
　リスク管理の基本的考え方、リスクの定量化、リスクヘッジと保険

第8回、第9回、第10回、第11回　テーマ：ポートフォリオ理論、講義資料配布（教科書12章）
　第8回　不確実性下での意思決定を学ぶ前提の確認、無差別曲線とその性質、効用最大化、期待効用
　第9回　2パラメーターアプローチ
　第10回　資産選択の分析、期待収益、2資産のポートフォリオの検討
　第11回　効率的ポートフォリオ、ポートフォリオフロンティア、最適ポートフォリオの考え方

第12回、第13回　テーマ：CAPMモデル、講義資料配布（教科書13章）
　第12回　資本市場線、市場でのリスクプレミアムの考え方
　第13回　ベータ、証券市場線の考え方

第14回、第15回　テーマ：オプション、講義資料配布（教科書15章を参考）
　第14回　オプションの仕組み及び種類の確認、プットコールパリティ
　第15回　ボラティリティ、オプションプレミアム、2項モデル

第16回　期末試験
　　試験範囲：第1回から第15回まで。

テキスト	ボディ・マートン『現代ファイナンス論』(改訂版)ピアソンエデュケーション、2000年 配布する講義資料。
参考文献	① 釜江廣志　他『証券論』有斐各ブックス、2004年 ② 米沢康博　他『新しい企業金融』有斐閣、2004年
評価の方法	期末試験150点、小テスト100点、課題50点の合計点で評価。 A評価:80%以上、B評価:70%以上、C評価:60%以上、D評価:50%以上 小テストは受講者が理解度を自ら確認するという意味でも重要である。 試験については努力が報われるような出題を心がける。
学生へのメッセージ	第8回目以降では、複雑な理論についても言及する。受講者の積極的な学習姿勢を期待する。 ただし、数式の厳密な展開よりも、考え方を重視する。

科　目　名	資本主義経済のしくみⅡ	科目分類	専門・選択
		開講年次	２年次
英文表記	Capitalism Ⅱ	開講期間	後期
ふりがな	しまだ　こうや	単位数	2 単位
担当者名	嶋田　耕也		
授業の到達目標及びテーマ	20 世紀に入って、資本主義経済がどのような変貌を示すのか、そしてそれが現代にいかなる作用を及ぼしているのか。現代経済を理解するための指針を提供したい。		

【授業概要】

20 世紀は、企業規模の拡大とともに、経済政策が自由主義政策から帝国主義政策へと一変する。この大きな変化は新たな経済概念と経済活動を生み出し、また新たな経済理論を生み出す。この時代の経済を理解せずして現代を理解することはできない。

新聞は生きた教材ですので、新聞をよく読む習慣をつけましょう。

授業計画
第１回　第二次産業革命
第２回　資本規模の巨大化　カルテル・トラスト・コンツェルン
第３回　銀行の役割と株式会社制度
第４回　資本輸出と帝国主義政策
第５回　20 世紀における経済学の課題
第６回　修正資本主義・ケインズ（1）
第７回　修正資本主義・ケインズ（2）
第８回　冷戦体制とパックス・アメリカーナ
第９回　第二次大戦後の国際経済（1）
第 10 回　第二次大戦後の国際経済（2）
第 11 回　1970 年代初頭の二つのショック
第 12 回　不確実性の時代　変動相場制
第 13 回　1980 年代の世界経済
第 14 回　1990 年代の世界経済
第 15 回　21 世紀における経済学の課題
第 16 回　テスト

テキスト	使用せず。プリント配布、および板書。
参考文献	授業時に指示します。
評価の方法	出席数とテストの点数
学生へのメッセージ	平成生まれの皆さんに、是非昭和およびそれ以前の歴史を理解してもらいたい。

科　目　名	日本経済の歩みⅡ	科目分類	□教養科目　■専門科目	
			経済学科	□必修　■選択
			マネジメント学科	□必修　■選択
英文表記	Japanese Economic History Ⅱ	開講年次	□１年　■２年　□３年　□４年	
ふりがな	すずき　たつろう	開講期間	□前期　■後期　□通年　□集中	
担当者名	鈴木　達郎	修得単位	２単位	
授業の到達目標及びテーマ	〔到達目標〕日本経済の歴史的特質を明らかにすること 〔テーマ〕　明治維新期と産業革命期の日本経済			
準備学習	歴史のおおまかな流れをつかんでおくこと。また、手元に年表を常においておくこと。			

【授業概要】　本講義が対象とする時期は、1853 年のペリー来航から 1910 年の韓国併合までの明治維新期、産業革命期である。この時期に日本は近代化へのテイクオフに一応の成功を収めた。ただしその過程は、手放しで賞賛されることでもなければ、一方的な非難があびせられることでもない。本講義の課題は、なぜ日本がテイクオフに成功することができたのかを経済史の視点から考察することにある。

授業計画
第１回　開国の経済的影響
第２回　開国の政治的影響―幕末の政治過程―
第３回　地租改正
第４回　秩禄処分
第５回　殖産興業
第６回　明治国家の成立
第７回　小括―明治維新期の日本経済の特質―
第８回　産業革命の開始
第９回　重工業の展開
第 10 回　鉱山業の展開―財閥論―
第 11 回　紡績業の展開
第 12 回　製糸業の展開
第 13 回　農業の展開―地主制論―
第 14 回　植民地
第 15 回　小括―産業革命期の日本経済の特質―
第 16 回　定期試験

テキスト	テキストは使用しない。講義のなかで資料を配付する。
参考文献	講義のなかで紹介する。
評価の方法	プリントの提出および定期試験によって総合的に判定する。
学生へのメッセージ	NHK の表現を借りれば「JAPAN デビュー150 年」、日本の近代への関心が高まっています。

科　目　名	欧米の産業と交易の歴史　Ⅰ	科目分類	専門　/　選択
		開講年次	２
英文表記	European and American Economic History Ⅰ	開講期間	前期
ふりがな	しらかわ　きんや	単位数	２
担当者名	白川　欽哉		
授業の到達目標及びテーマ	中世から近代への転換において商業（流通）と手工業・工業（生産）の変化が果たした意味をつかむ		
事前学習	受講にあたっては、世界史（古代と中世のヨーロッパ）の勉強をしっかりとしておいて下さい。		

【授業概要】本講義では、世界史のさまざまな事象を、生産と流通を軸に類型化します。講義は平易な表現で行い、必要不可欠な専門用語については可能な限り詳しく解説します。講義では、普段聞き慣れない地名（例：フランドル・ブラバントなど）や当該地域の産業についての説明が登場しますので、ヨーロッパやアメリカの地誌（農業、鉱産資源など）についてあらかじめ勉強しておいて下さい。

授業計画
第１回　欧米の経済史を学ぶ
第２回　ヨーロッパの誕生　―　ローマ帝国からの自立化　―
第３回　十字軍と「商業の復活」　―　イスラムとキリスト教　―
第４回　ヴァイキングロードと西欧、東欧の誕生
第５回　遍歴商人の定住と新しい都市の誕生
第６回　自治都市の形成と発展
第７回　大航海時代以降の構造転換　―　重商主義の時代へ　―
第８回　オランダの独立と繁栄　―　スペインの時代の終焉　―
第９回　毛織物の生産と輸出をめぐる競争　―　アメリカ大陸と東南アジアへの接近　―
第 10 回　オランダの凋落とイギリスの台頭
第 11 回　イギリス綿工業の勃興と成長　―　産業革命　―
第 12 回　イギリス工業のフルセット化　―　産業革命と新興工業部門の成長　―
第 13 回　フランス革命と「営業の自由」
第 14 回　ドイツ関税同盟と鉄道建設
第 15 回　総まとめ
第 16 回　筆記試験

テキスト	石坂昭雄・舟山榮一・宮野啓二・諸田實編著『西洋経済史』（有斐閣）
参考文献	石坂昭雄・壽永欣三郎・山下幸夫・諸田實編著『商業史』（有斐閣）
評価の方法	筆記試験の点数と出席率の総合評価（出席３分の２以上の学生のみ評価します）
学生への メッセージ	講義で学んだことを、いま一度テキストを使って深めてみましょう

科　目　名	銀行の業務	科目分類	□教養科目　☑専門科目
			□必修　☑選択
			□必修　☑選択
英文表記	Management of Banks	開講年次	□１年 ☑２年 □３年 □４年
ふりがな	あきたけんしんようくみあい　やまもとしゅん	開講期間	□前期 □後期 □通年 □集中
担当者名	秋田県信用組合　　山本　俊	修得単位	２単位
授業の到達目標及びテーマ	金融機関の主要な役割は資金供給と同時に情報生産活動にある。この情報生産の側面を学習し、金融機関の役割を貸す側の視点から理解できるようになること。		
準備学習	①　預金を扱う金融機関の業務の概要を事前に調べておくこと。 ②　授業の復習は必ずその日に行うこと。		

【授業概要】現代ファイナンス論Ｉの金融機関の機能（第７回、８回）の部分に焦点をあて、特に、銀行の情報生産の視点から学習する。中小企業金融や地域金融にも言及する。また、秋田信用組合から講師をお招きし、実務家の視点から、講義して頂く予定である。貴重な機会であるので、多くの受講生を期待する。

授業計画

第１回　テーマ：金融機関の種類と機能、講義資料配布
ガイダンス、金融機関の種類と役割、金融機関の業務と現状

第２回　テーマ：日本の銀行の状況と特徴、講義資料配布
銀行の定義と推移、銀行の貸借対照表と損益計算書、メインバンク制度

第３回　テーマ：銀行預金とデリバリーチャネル、講義資料配布
金融機関利用に関する意識調査(郵政総合研究所)、銀行店舗網と ATM の変化と規制、預金需要

第４回　テーマ：銀行の産業組織、講義資料配布
SCP パラダイムの視点、規模の経済の意味と U 字型の平均費用曲線、範囲の経済の意味と費用補完性

第５回　テーマ：銀行の市場規律、講義資料配布
取りつけ騒ぎとその防止、預金保険制度とモラルハザード、自己資本比率規制、貸し渋り

第６回　テーマ：　資金供給と銀行システム、講義資料配布
バランスシート制約、貨幣乗数、信用創造、コール市場と準備金、ハイパワードマネー、公開市場操作

第７回、第８回、第９回　テーマ：中小企業金融　、講義資料配布
　第７回　中小企業の定義と現状、中小企業金融の特徴
　第８回　中小企業への銀行融資、ディスカレッジド・ボロワーズ
　第９回　公的資金と信用保証制度

第 10 回、第 11 回、第 12 回　テーマ：信用組合講師による講義
　第 10 回　第１回目講義：（参考）一昨年度の講義テーマは「信用組合とは」
　第 11 回　第２回目講義：（参考）一昨年度の講義テーマは「信用組合の実際の仕事」
　第 12 回　第３回目講義：（参考）一昨年度の講義テーマは「信用組合の地域社会における役割」

第 13 回、第 14 回　テーマ：地域金融、講義資料配布
　第 13 回　資金偏在、リレーションシップバンキングとアクションプログラム、営業地盤と収益率
　第 14 回　地域銀行の効率性と営業地盤、地域銀行の姿勢、地域経済の振興

第 15 回　テーマ：金融システムの安定性、講義資料配布
公的資金の注入、預金保険、金融再生プログラムとメガバンクの不良債権処理、安定化対策

第 16 回　期末試験
　　試験範囲：第１回から第 15 回まで。

テキスト	なし。配布する講義資料。
参考文献	① 筒井義郎編『金融分析の最先端』東洋経済新報社、2000 年 ② 藪下史郎『中小企業金融入門』(第２版)東洋経済新報社、2006 年
評価の方法	期末試験 150 点、小テスト 100 点、小レポート 50 点の合計点で評価。 A 評価:80%以上、B 評価:70%以上、C 評価:60%以上、D 評価:50%以上 小テストは受講者が理解度を自ら確認するという意味でも重要である。 試験については努力が報われるような出題を心がける。
学生へのメッセージ	いかなる分野で活躍するにも、金融機関との関係は長く続く。よって、金融機関の重要な機能である情報生産の側面を理解しておくことは有用である。

科　目　名	経済学の歴史Ⅱ	科目分類	専門・選択
		開講年次	３年次
英文表記	The History of Economic Thought Ⅱ	開講期間	後期
ふりがな	しまだ　こうや	単位数	2 単位
担当者名	嶋田　耕也		
授業の到達目標及びテーマ	20 世紀を代表する経済理論家、ケインズ、シュンペーター、レオンチェフ、サミュエルソンを取り上げました。必ずや経済を一層身近なものと感じるはずです。		

【授業概要】ケインズによって現代の経済政策、および管理通貨制度の本質を、シュンペーターによって資本主義発展のダイナミズムを、レオンチェフによって産業間の結びつきを、サミュエルソンによってミクロとマクロの総合の本質を勉強します。
西欧のこれら学説は、皆さんに無関係なものと思われるかもしれませんが、すべて現実生活に大きく関連しています。この授業の現実感覚のために是非新聞を読みましょう。

授業計画
第１回　ケインズとその時代
第２回　ケインズ理論（1）
第３回　ケインズ理論（2）
第４回　ケインズ理論（3）
第５回　ケインズ理論（4）
第６回　シュンペーターの経済理論（1）
第７回　シュンペーターの経済理論（2）
第８回　レオンチェフと産業連関表
第９回　産業連関論（1）
第 10 回　産業連関論（2）
第 11 回　産業連関論（3）
第 12 回　産業連関論（4）
第 13 回　サミュエルソンの新古典派総合（1）
第 14 回　サミュエルソンの新古典派総合（2）
第 15 回　経済学の歴史のまとめ
第 16 回　テスト

テキスト	使用せず。プリント配布、および板書。
参考文献	授業時に指示します。
評価の方法	出席回数とテストの点数。
学生へのメッセージ	20 世紀の経済学は非常に実践的なものになってきます。数学も取り入れながら学んでいきましょう。

（半期・２単位）

科　目　名	年金・保険を考える	科目分類	専門科目	
				選　択
英文表記	Social Security	開講年次	３　年	
ふりがな	ふじもと　つよし	開講期間	後　期	
担当者名	藤本　　剛	修得単位	２　単位	
授業の到達目標及びテーマ	〔到達目標〕健やかで豊かな暮らしを実現するために何が必要か、将来に向けた取り組みを理解する。 〔テーマ〕　公的年金・企業年金・公的医療保険・公的介護保険・その他の社会保障制度			
準備学習	新聞の社会保障関係の記事を読んでおく。前週の講義内容を復習しておく。			

授業概要】20 歳になると学生であっても、国民年金の保険料を納める義務が生じます。特例制度の適用申請を行って、とりあえずは納付を先延ばしした人もいるでしょう。老後や障害に備えた保障の準備は全国民に求められています。病気やケガに対する備えも同様です。社会保険のシステムを用いた社会保障制度は国民の健やかで豊かな生活の実現を目指しています。制度はかなり複雑で、時代に応じて変化も大きいですが、現状はどうなのか。また、将来はどうなるのか。国民の年金不信や医療費の負担増など、様々な課題があるなかで、私たちの将来の方向を共に考えていく科目です。

授業計画
第１回　社会保障とは何か・その歴史と背景
第２回　社会保障の体系・社会保険について
第３回　公的年金制度①（制度と内容１）
第４回　公的年金制度②（制度と内容２・背景）
第５回　公的年金制度③（現状と課題）
第６回　企業年金①（制度と内容）
第７回　企業年金②（現状と課題）
第８回　公的扶助①（意義・原理・原則）
第９回　公的扶助②（現状と課題）
第 10 回　公的医療保険①（制度の概要）
第 11 回　公的医療保険②（健康保険）
第 12 回　公的医療保険③（国民健康保険・老人保健）
第 13 回　公的医療保険④（薬事）
第 14 回　公的介護保険（制度の概要）
第 15 回　公的介護保険（現状と課題）
第 16 回　まとめとテスト

テキスト	プリントを使用します。
参考文献	『公務員Ｖテキストシリーズ　社会政策』TAC 出版 『厚生労働白書』各年版
評価の方法	出席率、試験、レポート、メッセージカードの総合評価
学生へのメッセージ	半期で行うには対象範囲が広い科目です。予習・復習を是非行ってください。

科　目　名	地域の経済政策	科目分類	□教養科目　■専門科目	
			経済	□必修　■選択
			経済	□必修　■選択
英文表記	Regional　Policy　of　Economy	開講年次	□１年　□２年　■３年　■４年	
ふりがな	のぐち　ひでゆき	開講期間	□前期　■後期　□通年　□集中	
担当者名	野口　秀行	修得単位	２　単位	
授業の到達目標及びテーマ	〔到達目標〕地域経済の現状と課題の整理と課題の解決策 〔テーマ〕地域経済の優勝劣敗			
準備学習	・常に復習しておくこと			

【授業概要】なぜ過疎が進むのか？なぜ都市と地方との間に経済格差が生まれるのか？経済のグローバル化がなぜ地域経済を疲弊させているのか？これらの問題を解決していくためには、地域の経済政策は、どうあるべきなのかについ学ぶ。

授業計画	
第１回	勝ち組みの代表亀山モデル
第２回	産業構造転換と地域経済（浜松に見る地域の産業政策）
第３回	地域経済と産業インフラ整備Ⅰ（鉄道・港湾・空港・高速道路）
第４回	地域経済と産業インフラ整備Ⅱ（高速インターネット・大学）
第５回	地方自治体の産業政策の放棄
第６回	産官学連携とインキュベーション
第７回	マイケル・ポーターの産業クラスター論
第８回	９０年代米国におけるクラスター形成
第９回	わが国における地域クラスター形成
第 10 回	インテリジェントコスモスの挫折と東北の先端産業
第 11 回	創造化時代・知識経済への転換（１）
第 12 回	創造化時代・知識経済への転換（２）
第 13 回	秋田の老舗企業と時代への対応は
第 14 回	秋田のオンリーワン企業（世界的な高シェア企業群）
第 15 回	創造化時代・知識経済への転換（３）
第 16 回	期末試験

テキスト	プリント配布
参考文献	追って連絡します
評価の方法	期中のレポートおよび期末試験の結果を総合して判断します。
学生へのメッセージ	経済を面白く楽しく学びます

科　目　名	新聞で読む経済事情	科目分類	□教養科目　■専門科目	
			経済学科	□必修　■選択
			マネジメント学科	□必修　■選択
英文表記	Economic Conditions	開講年次	□１年　□２年　■３年　□４年	
ふりがな	すずき　たつろう	開講期間	□前期　■後期　□通年　□集中	
担当者名	鈴木　達郎	修得単位	２単位	
授業の到達目標及びテーマ	〔到達目標〕日々の経済情勢の変化を分析する力を養う 〔テーマ〕　経済リテラシーを新聞で鍛える			
準備学習	図書館には「日本経済新聞」が置いてある。時間をぬすんでそれを閲覧しよう。			

【授業概要】　新聞の経済記事を難なく読めるようになることが経済リテラシーを身につけた証拠だとよくいわれる。また、就職活動対策として、新聞を読んでおくべきだということもよく指摘される。しかし、現実にはみなさんどうだろう。新聞を読んでいるだろうか。読んでいても経済欄を敬遠していないだろうか。これまで蓄えてきた経済学の知識が本当に自分のものになっているか、また、それを現実の経済の動きに応用できるか、新聞の経済記事を読むと、そのようなことが試される。効用は抜群である。

授業計画
第１回　新聞の経済記事を読む効用
第２回　メディア・リテラシーを考える
第３回　新聞の経済記事を読む方法①
第４回　新聞の経済記事を読む方法②
第５回　教員による経済記事解説①
第６回　教員による経済記事解説②
第７回　教員による経済記事解説③
第８回　教員による経済記事解説④
第９回　学生による経済記事解説①
第 10 回　学生による経済記事解説②
第 11 回　学生による経済記事解説③
第 12 回　学生による経済記事解説④
第 13 回　学生による経済記事解説⑤
第 14 回　学生による経済記事解説⑥
第 15 回　学生による経済記事解説⑦
第 16 回　定期試験

テキスト	テキストは使用しない。講義のなかで資料を配付する。
参考文献	講義のなかで紹介する。
評価の方法	「学生による経済記事解説」および定期試験によって総合的に判定する。
学生へのメッセージ	新聞の経済記事を読むことを習慣化しよう。

科　目　名	経営学Ⅱ （マネジメント論）	科目分類	□教養科目　■専門科目	
			経済	□必修■選択
			マネジメント	■必修□選択
		開講年次	■１年□２年□３年□４年	
英文表記	Business AdministrationⅡ	開講期間	□前期■後期□通年□集中	
ふりがな	まつながくにまさ	単位数	２単位	
担当者名	松永州正			
授業の到達目標及びテーマ	〔到達目標〕企業における３つのマネジメント活動を理解すること 〔テーマ〕企業のマネジメント理論としての経営学			
準備学習	事前にテキストの関連部分を読んでおくことが望ましい。			
授業概要	経営学はアメリカにおいて、企業のマネジメント理論として誕生した。企業のマネジメント活動は「戦略をたてる」「組織をつくる」「人を動かす」の３つから成り立つ。これらのマネジメント活動を取り上げ、その概要を解説する。			

授業計画
第１回　企業における３つのマネジメント活動―戦略をたてる、組織をつくる、人を動かす―
第２回　戦略をたてる（１）―経営戦略の体系―
第３回　戦略をたてる（２）―多角化と企業の戦略ビジョン―
第４回　戦略をたてる（３）―企業の競争戦略―
第５回　戦略をたてる（４）―企業における競争戦略の類型―
第６回　戦略をたてる（５）―市場の発展と競争戦略―
第７回　組織をつくる（１）―アメリカにおけるマネジメント思想の生成―
第８回　組織をつくる（２）―テーラーの科学的管理法―
第９回　組織をつくる（３）―官僚制組織論―
第 10 回　組織をつくる（４）―ホーソン工場実験と人間関係論―
第 11 回　組織をつくる（５）―近代組織論―
第 12 回　組織をつくる（６）―組織のコンティンジェンシー理論―
第 13 回　人を動かす（１）―企業のインセンティブシステム―
第 14 回　人を動かす（２）―仕事と報酬―
第 15 回　人を動かす（３）―リーダーシップ―
第 16 回　期末試験

テキスト	坂下昭宜(2007)『経営学への招待』白桃書房
参考文献	授業中に紹介する。
評価の方法	期末試験を中心に、授業中に課す課題を加味して評価する。
学生へのメッセージ	本講義を通じて、企業のマネジメント活動の基本的な内容を理解できれば、たいへん望ましいことである。

科　目　名	刑法総論	科目分類	□教養科目　■専門科目	
			法律	■必修　□選択
			観光	■必修　□選択
英文表記	Criminal Law (general part)	開講年次	■１年　□２年　□３年　□４年	
ふりがな	あきやま　えいいち	開講期間	□前期　■後期　□通年　□集中	
担当者名	秋山　栄一	修得単位	４　単位	
授業の到達目標及びテーマ	犯罪論の基本的理解			
準備学習	指定されたテキストに一通り目を通し、その上で、次回の講義の単元を読む。また、日々の報道に関心をもち、社会の出来事に目を向け、耳を傾けることを望む。			
授業概要	犯罪と刑罰に関する法律である刑法は、私達の日常生活に密接にかかわっている。刑法は身近な存在でなければならない。市民に理解された行為規範として機能すべきである刑法は、その理論性、思想性を前提とした学説の対立の激しさの故に、敬遠されがちである。そこで、本講義では、基本用語の理解から刑法の機能や犯罪の理論的把握、刑罰の根拠などの基本的問題について理解しやすくするために、判例の動向や事例を活用して体系的に段階的に議論を進めていく。なお、講義の進行方式としては、毎回レジュメを配布し、その流れに従っていく予定である。それ故、必ずしも指定のテキストの順序に従うとは限らないことがあることをお断りしておく。			

授業計画

第１回　講義ガイダンス 刑法を学ぶ前提としての基本概念の理解	第 17 回 責任論の本質と構造
第２回　刑法及び刑法学の概念 刑法の意義、規範、機能	第 18 回 責任能力
第３回　刑法及び刑法理論 刑法思想・学説史	第 19 回 責任故意・過失と違法性の意識、錯誤
第４回　刑法の基本主義 罪刑法定主義、責任主義等	第 20 回 期待可能性
第５回　犯罪論の基礎と体系	第 21 回 修正された構成要件該当性①未遂犯
第６回　構成要件の意義と機能	第 22 回 修正された構成要件該当性②未遂犯②
第７回　基本的構成要件該当性①実行行為	第 23 回 修正された構成要件該当性③ 共犯論の基礎、共同正犯
第８回　基本的構成要件該当性②因果関係	第 24 回 修正された構成要件該当性④教唆犯・従犯
第９回　基本的構成要件該当性③ 構成要件的故意・過失、錯誤	第 25 回 修正された構成要件該当性⑤ 共犯をめぐる諸問題
第 10 回 違法性の本質	第 26 回 小括
第 11 回 違法性阻却事由① 正当防衛	第 27 回 罪数論
第 12 回 違法性阻却事由② 緊急避難	第 28 回 刑罰論の本質
第 13 回 違法性阻却事由③ 正当行為	第 29 回 刑の種類、刑の量定、執行
第 14 回 違法性をめぐる諸問題	第 30 回 後半の総括
第 15 回 前半の総括	第 31 回 全体の総括
第 16 回 試験①	第 32 回 試験②

テキスト	大塚仁『刑法入門〔第４版〕』有斐閣 2003
参考文献	大塚仁『刑法概説第〔第４版〕』有斐閣 2008、西田典之・山口厚編『刑法判例百選Ⅰ〔第６版〕』有斐閣
評価の方法	２/３以上の出席を前提として、出席３０％、試験７０％の割合で、厳正に評価する
学生へのメッセージ	指定テキスト・最新の六法・ノート・毎回配布するレジュメを必携のこと、また積極的な講義参加を望む

科　目　名	政治史Ⅱ（過去から学ぶ政治の知恵Ⅱ）	科目分類	教養・選択
		開講年次	1
英文表記	Modern Political History II	開講期間	後期
ふりがな	あそむら　くにあき	単位数	2
担当者名	阿曽村　　邦明		
授業の到達目標及びテーマ	今日の日本の礎（いしずえ）を築いた明治時代の内政と外交を理解する		

【授業概要】
「過去から学ぶ政治の知恵Ⅰ」で得た知見をもとに、日本が内政を整備し、日清、日露の２つの戦争に勝利し、世界の列強の１つにのし上がった課程を理解する。

授業計画
第１回　　自由民権運動
第２回　　明治憲法制定に至る立憲思想
第３回　　憲法と議会の発足
第４回　　財政と産業の発展（１）大熊財政
第５回　　（２）松方財政
第６回　　条約改正への努力
第７回　　日清戦争（１）
第８回　　（２）
第９回　　日清戦争後の国民意識の高揚
第 10 回　　日露戦争（１）
第 11 回　　（２）
第 12 回　　（３）
第 13 回　　日露戦争後の対外関係（米国との関係悪化）
第 14 回　　日露戦争後の国内民主化の停滞
第 15 回　　近代的国家機構の整備と天皇制
第 16 回　　試験

テキスト	牧原憲夫、民権と憲法（岩波新書）および原田敬、日清・日露戦争（岩波新書）
参考文献	坂野潤治、近代日本の国家構想 1871―1936(岩波現代文庫)
評価の方法	出席と試験
学生へのメッセージ	教科書(2 種)は必ず熟読。試練の際に教科書と筆記ノートは持ちこみ可。質問歓迎。映像を活用する。

科　目　名	生活と政治 II	科目分類	教養・選択
		開講年次	1
英文表記	Life and Politics　II	開講期間	後期
ふりがな	あそむら　くにあき	単位数	2
担当者名	阿曽村　　邦明		
授業の到達目標及びテーマ	政治を見る眼を養う		

【授業概要】
「生活と政治 I」で得た知見をもとに、政治の具体的な過程と動態を学ぶ。政治を考える上での「文法」なり見方を身につける。各種公務員試験対策に役立つよう工夫する。

授業計画
第 1 回　　政治の役割
第 2 回　　日本における政党と政治（1）歴史的考察
第 3 回　　（2）民主党中心の政権への交替
第 4 回　　圧力団体
第 5 回　　選挙（1）
第 6 回　　（2）
第 7 回　　マスメディアと世論
第 8 回　　世論に訴える手段としての公開討論（国家予算委員会での質疑応答など）
第 9 回　　政治の仕組みと法（1）日本国憲法と国会
第 10 回　　（2）行政と内閣―官僚制の問題点―
第 11 回　　（3）司法
第 12 回　　（4）自治体の行政と法
第 13 回　　社会層と政治
第 14 回　　戦後日本政治過程概観
第 15 回　　講義の総括と問題演習
第 16 回　　試験

テキスト	中村昭雄、基礎からわかる政治、声書房
参考文献	追々指示する
評価の方法	出席と試験
学生へのメッセージ	（1）　政治問題に関する新聞、雑誌の記事、社説、論文などに目を通す。 （2）　お互いに意見を交換しつつ、自分なりの考え方を持つようにつとめる

科　目　名	債権総論 （請求権の性質）	科目分類	□教養科目　■専門科目	
			法律学科	■必修　□選択
			観光学科	□必修　■選択
英文表記	LawofObligation(general)	開講年次	□１年　■２年　□３年　□４年	
ふりがな	メン　カンソプ	開講期間	□前期　■後期　□通年　□集中	
担当者名	孟　觀燮	修得単位	４単位	
授業の到達目標及びテーマ	〔到達目標〕抽象的な債権総論の条文が、日常生活の中で具体的に実現される仕組みを理解する。 〔テーマ〕債権と債務			
準備学習	授業前に、テキストに目を通しておくこと			
授業概要	請求権の性質では、民法第三編「債権」第一章の総則を勉強します。債権は、「特定の人が他の特定の人に対して、一定の行為を請求できる」と定義されます。特定の人が特定の人に対して、どのような請求ができるか、一緒に考えてみましょう。			

授業計画	
第１回　債権の定義１	第 17 回　詐害行為取消権１
第２回　債権の定義２	第 18 回　詐害行為取消権２
第３回　さまざまな種類の債権	第 19 回　第三者による債権侵害
第４回　特定物債権	第 20 回　債権譲渡１
第５回　種類債権	第 21 回　債権譲渡２
第６回　金銭債権	第 22 回　債務引受
第７回　利息債権、選択債権	第 23 回　弁済１
第８回　債務不履行１	第 24 回　弁済２
第９回　債務不履行２	第 25 回　弁済３
第 10 回　債務不履行３	第 26 回　相殺
第 11 回　債務不履行４	第 27 回　更改・免除・混同
第 12 回　債権の第三者に対する効力の概観	第 28 回　多数当事者の債権債務関係１
第 13 回　債権者代位権１	第 29 回　多数当事者の債権債務関係２
第 14 回　債権者代位権２	第 30 回　多数当事者の債権債務関係３
第 15 回　まとめ	第 31 回　まとめ
第 16 回　中間試験	第 32 回　期末試験

テキスト	角　紀代恵「債権総論」（新世社）
参考文献	
評価の方法	試験（中間・期末試験－総点 80 点）と出席状況（欠席２回まで－20 点。欠席３回以上４回まで－15 点。欠席５回以上６回まで－10 点。欠席 7 回以上 9 回まで－5 点。10 回以上―受験資格なし）
学生へのメッセージ	なぜこのような条文が存在するか、いつも考えてください。

科　目　名	犯罪の原因と対策 （刑事政策）	科目分類	□教養科目　■専門科目
			□必修　■選択
			□必修　□選択
英文表記	Criminology	開講年次	□１年　□２年■３年　□４年
ふりがな	ちゅうじょう　しんいちろう	開講期間	□前期　□後期　□通年　□集中
担当者名	中條　晋一郎	修得単位	４単位
授業の到達目標及びテーマ	〔到達目標〕犯罪の原因と対策についての諸理論と実践を学び、理解する。 〔テーマ〕刑事政策の理論と実践を学ぶ		
準備学習	・前回学習した箇所について、教科書・ノート・配布資料を用いて復習しておくこと。 ・次回学習する箇所について、教科書を読んで予習しておくこと。		
授業概要	刑罰法令を定めるだけでは、犯罪対策として十分ではない。逮捕、刑事裁判手続き、そして刑の執行という一連の刑事司法手続きが、法律や規則に基づき適切に行われなければ、犯罪をなくすことはできない。そして、そのプロセスの根底には、再犯を防ぎ、犯罪者の社会復帰を支援するという社会復帰理念がある。この講義では、刑事政策の理念と実践を、歴史や犯罪現象の分析などを交えながら解説する。		

授業計画

第１回　この講義についてのガイダンス／刑事政策とは何か	第 17 回　刑事司法・少年司法機関
第２回　刑事政策の歴史(1) ～近代刑事政策の誕生～	第 18 回　刑罰(1)　～生命刑～
第３回　刑事政策の歴史(2) ～現代の刑事政策理論の動向～	第 19 回　刑罰(2)　～自由刑～
第４回　犯罪の原因論(1)	第 20 回　刑罰(3)　～財産刑～／　保安処分
第５回　犯罪の原因論(2)	第 21 回　犯罪者処遇の意義
第６回　わが国の犯罪情勢～犯罪統計から～	第 22 回　監獄法改正と犯罪者処遇の新展開
第７回　各種犯罪の動向(1)　～交通犯罪～	第 23 回　施設内処遇
第８回　各種犯罪の動向(2)　～薬物犯罪～	第 24 回　社会内処遇
第９回　各種犯罪の動向(3)　～組織犯罪～	第 25 回　少年保護手続き(1)
第 10 回　各種犯罪の動向(4)　～高齢者犯罪～	第 26 回　少年保護手続き(2)
第 11 回　各種犯罪の動向(5)　～外国人犯罪～	第 27 回　少年保護手続き(3)
第 12 回　各種犯罪の動向(6)　～企業犯罪～	第 28 回　犯罪被害者の支援と法的地位(1)
第 13 回　各種犯罪の動向(7)　～性犯罪～	第 29 回　犯罪被害者の支援と法的地位(2)
第 14 回　各種犯罪の動向(8) ～家庭内・近親者間犯罪～	第 30 回　刑事司法の国際化と犯罪対策
第 15 回　少年非行の現状	第 31 回　期末試験
第 16 回　刑事制裁総説　～刑罰・処分～	第 32 回

テキスト	守山正・安部哲夫（編著）『ビギナーズ刑事政策』（成文堂・2008 年）
参考文献	矢島正見他（編著）『改訂版よくわかる犯罪社会学入門』（学陽書房・2009 年）
評価の方法	期末試験の点数と講義内で実施する小テストの点数との合計点で、評価をする。
学生へのメッセージ	教科書を必ず購入し、毎回の講義には六法全書とあわせて持参すること。また、講義中の私語は、真剣に講義に臨む者を妨害する行為であるから、断固許さない。

科　目　名	景観論入門	科目分類	□教養科目　■専門科目	
			法律	□必修　■選択
			観光	□必修　■選択
英文表記	Introduction to Landscape theory	開講年次	□１年　■２年　□３年　□４年	
ふりがな	わたべ　たかあき	開講期間	■前期　□後期　□通年　□集中	
担当者名	渡　部　高　明	修得単位	２単位	
授業の到達目標及びテーマ	〔到達目標〕景観の意義と見る視点を養うことを目標にします 〔テーマ〕　景観からの観光とまちづくり			
準備学習	日々の生活の中で、景観や風景を感じ取ってください			

【授業概要】景観の意義・種類を学びつつ、景観や風景を見る力を養うとともに、景観が観光やまちづくりに及ぼす仕組みを授業します

授業計画
第１回　ガイダンス 景観とは
第２回　自然景観
第３回　歴史・文化景観
第４回　都市景観
第５回　八景と百景
第６回　景観と行政
第７回　景観権と裁判
第８回　景観条例
第９回　景観法
第 10 回　景観計画
第 11 回　景観と観光①
第 12 回　景観と観光②
第 13 回　景観とまちづくり①
第 14 回　景観とまちづくり②
第 15 回　まとめ
第 16 回　期末試験

テキスト	「市民の街づくり」(伊吉書院)
参考文献	授業中紹介
評価の方法	期末試験、レポート、出席および授業の状況
学生への メッセージ	景観を学び、観光とまちづくりを考えましょう

科　目　名	観光イベント論	科目分類	□教養科目　■専門科目	
				□必修　□選択
			観光	□必修　■選択
英文表記		開講年次	□１年　□２年　■３年　□４年	
ふりがな	おく　まさたか	開講期間	■前期　□後期　□通年　□集中	
担当者名	奥　正　孝	修得単位	２単位	
授業の到達目標及びテーマ	〔到達目標〕イベントの実践を通じてイベントの理論とイベント計画を修得する 〔テーマ〕			
準備学習	※イベントに関わることを常に意識すること			

【授業概要】机上の講義と学外での体験　イベントの企画書を作成する

授業計画
第１回　私の夢　を発表・作文
第２回　コミュニティーデベロップメントゲーム
第３回　何に見えるか
第４回　連想ゲーム
第５回　イベントの基本的な構成要素　６Ｗ２Ｈ
第６回　イベントの分類
第７回　イベントの特性
第８回　イベントの効果と役割
第９回　イベントづくりの手順
第 10 回 イベントづくりを担当する人々
第 11 回 イベントの計画
第 12 回 イベントのつくり方とプレゼンテーションの方法
第 13 回 告知・集客活動の色々
第 14 回 効果的なイベントづくりのための４ポイント
第 15 回 総括
第 16 回 テスト

テキスト	
参考文献	
評価の方法	※出席50%･試験50%
学生へのメッセージ	「観光」と「イベント」とは切り離せないものである

科　目　名	世界のホテル日本のホテル	科目分類	□教養科目　■専門科目	
			法律	□必修　□選択
			観光	□必修　■選択
英文表記	What is Hotel / Overseas & Japan	開講年次	■１年 □２年 □３年 □４年	
ふりがな	むかいやち　ひろのぶ	開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中	
担当者名	向谷地　　博信	修得単位	２単位	
授業の到達目標及びテーマ	秋田の身近なホテルはホテルの一形態に過ぎない。海外と日本の一流のホテルに例をとり、ホテルとは何なのか、上手な使い方も含めホテルの世界を楽しく学ぶ。			
準備学習	事前配布ＴＥＸＴと関連する新聞記事を授業の前に目を通しておくこと。授業では各自最低１つの質問を課する			

【授業概要】
ホテルに関わる最新の豊富な情報を資料とビデオによりホテルの世界の全体像を包括的に理解する。また事例研究により考え表現する力を涵養する

第１回　オリエンテーション
第２回　やさしいホテルの歴史
第３回　ホテルと旅館の違いを考えてみよう
第４回　やさしいホテルの上手な使い方
第５回　世界のホテル１
第６回　世界のホテル２
第７回　世界のホテル３
第８回　世界のホテル４
第９回　世界のホテル５
第 10 回　日本のホテル１
第 11 回　日本のホテル２
第 12 回　日本のホテル３
第 13 回　日本のホテル４
第 14 回　日本のホテル５
第 15 回　まとめとキャリアデザイン
第 16 回　試験

テキスト	パワーポイントと資料
参考文献	授業の中で紹介します
評価の方法	出席数、試験、受講姿勢の総合評価
学生への メッセージ	ホテル事業は 21 世紀の日本の成長分野です。最新の豊富な事例に基づきホテルの楽しさを紹介します。

科　目　名	観光人類学	科目分類	□教養科目　■専門科目
			□必修　■選択
英文表記	Tourism Anthropology	開講年次	□１年 ■２年 □３年 □４年
ふりがな	いのうえ　ひろし	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中
担当者名	井上　寛	修得単位	２　単位
授業の到達目標及びテーマ	〔到達目標〕「観光」の切り口から社会をみることができる 〔テーマ〕観光と文化		
準備学習	インターネットや旅行のパンフレットをたくさん見て、観光と文化に親しんでください。		

【授業概要】観光において「文化」は重要なテーマのひとつです。なぜなら、文化は人類がつくりあげたものですし、それを「みる」行為である「観光」も人類がつくりあげた「文化」です。この時間は、世界遺産や秋田の文化を「観光」の切り口からみる力をつけることを目標にします。

授業計画
第１回　ガイダンス
第２回　観光と文化
第３回　ペットツーリズムの時代
第４回　ご当地「ゆるキャラ」と観光人類学
第５回　中国の観光を作り出すしかけ
第６回　ディズニーランドと巡礼
第７回　オーロラ・サンタクロース・サーミ人
第８回　観光商品と文化
第９回　情報資本主義と近代観光
第 10 回　バックパッカーツーリズムと消費文化
第 11 回　観光の現代史―マスツーリズム
第 12 回　観光と環境と世界遺産
第 13 回　ヘリテージツーリズムの光と影
第 14 回　観光からの排除された人たち
第 15 回　まとめ・復習
第 16 回　定期試験

テキスト	講義内で適宜資料を配布
参考文献	山下晋司著『観光文化学』新曜社　2007 年　(2,100 円)
評価の方法	定期試験と出席状況等により総合的に評価
学生への メッセージ	難しそうに感じるテーマですが、世界遺産、テーマパーク、ご当地ゆるキャラなど、これらは「観光と文化」に関係するテーマです。楽しく学びましょう。

科　目　名	会社法	科目分類	□教養科目　■専門科目	
			法律	■必修　□選択
			観光	□必修　■選択(22年度以前は必修■)
英文表記	Company Law	開講年次	□１年□２年　■３年　□４年	
ふりがな	みちはた　ただよし	開講期間	□前期　■後期　□通年　□集中	
担当者名	道端　忠孝	修得単位	４　単位	
授業の到達目標及びテーマ	〔到達目標〕会社、特に株式会社の基本構造を法的に理解すること 〔テーマ〕会社のメカニズムの基本を学ぶ			
準備学習	最低限、テキストを読んできてください。ポイントをノートに整理することができれば理解が容易になります。			
授業概要	会社法は、現在社会において大きな役割を果たしており、わが国には、世界有数の大会社も少なくありません。また、従来の有限会社も株式会社とみなされています。 そこで、株式会社を中心に、株式会社のメカニズムの基本を法的に学び、株式会社の基本構造を法的に明らかにしていきたいと考えています。			

授業計画

第１回　ガイダンス、会社法の概要	第 17 回　株式会社の機関
第２回　企業法としての会社法	第 18 回　株主総会
第３回　会社の種類	第 19 回　取締役の義務・責任①
第４回　営利社団法人としての会社	第 20 回　取締役の義務・責任②
第５回　会社の能力	第 21 回　取締役会・代表取締役
第６回　会社の商号・使用人・事業譲渡	第 22 回　委員会設置会社
第７回　株式会社の特色	第 23 回　株式会社の監査
第８回　株式会社の設立	第 24 回　株式会社の計算
第９回　発起人・設立関与者の責任等	第 25 回　募集株式の発行
第 10 回　株式の意義・内容	第 26 回　新株予約権
第 11 回　株式の内容・種類・株券・株主名簿	第 27 回　社債
第 12 回　株式の譲渡とその制限	第 28 回　定款変更・解散・清算・継続
第 13 回　自己株式の取得	第 29 回　組織変更・組織再編①
第 14 回　株式の消却・分割・無償割当・併合・単元株	第 30 回　組織変更・組織再編②
第 15 回　株式の担保	第 31 回　持分会社（合名・合資・合同会社）
第 16 回　中間試験	第 32 回　期末試験

テキスト	開講時に指示します。
参考文献	開講時に指示します。
評価の方法	試験･出席状況･授業態度等で、総合評価します。
学生へのメッセージ	会社法の条文は民法典と同様、1000 か条もありますので、予習･復習をして、ノート整理をしてください。

科　目　名	観光法規	科目分類	□教養科目　■専門科目	
			観光	■必修　□選択
			法律	□必修　■選択
英文表記	Tourism Law	開講年次	□１年　■２年　□３年　□４年	
ふりがな	みちはた　ただよし	開講期間	□前期　■後期　□通年　□集中	
担当者名	道端　　忠孝	修得単位	2　単位	
授業の到達目標及びテーマ	〔到達目標〕観光法令に基づくまちづくりのあり方の理解 〔テーマ〕観光振興と観光法令の関係の明確化			
準備学習	基本的には、プリントを配付してすすめていきますので、よく整理し、復習をしっかりしておいてください。			

【授業概要】今、観光立国推進基本法を基本法として種々の法令が定められています。そこで、本稿では、観光法令の体系や分類を明らかにし、観光振興と観光法令の関係を明確にしたうえで、観光事業法令や、観光開発法令（リゾート法など）のほか、景観法、文化財保護法、グリーンツーリズム法、エコツーリズム法、観光圏整備法などを取り上げ、観光法令に基づくまちづくりのあり方を明らかにしていきたい。

授業計画
第１回　ガイダンス；県内各地の観光まちづくりの現状などを紹介
第２回　観光、観光立国、観光立県、観光立町
第３回　観光と法律・行政
第４回　観光法の意義・体系
第５回　観光立国推進基本法と旧観光基本法
第６回　観光立国推進基本法の概要
第７回　リゾート法の概要
第８回　ゾート法の諸問題
第９回　　景観法
第 10 回　文化財保護法と景観整備・歴史まちづくり法
第 11 回　グリーンツーリズム法
第 12 回　エコツーリズム法
第 13 回　観光圏整備法
第 14 回　観光私法①旅行会社と客の法律関係
第 15 回　観光私法②ホテル・旅館と客の法律関係
第 16 回　試験

テキスト	開講時に指示する。
参考文献	開講時に指示する。
評価の方法	試験と出席状況･受講態度等で総合評価します。
学生への メッセージ	自分の生まれた市町村は今後どのようにすれば、より良い観光地になっていくか、考えながら受講しましょう。